

検証項目：再編による居場所において、児童館の機能・役割が継承・発展されているかどうか

【視点1】放課後等居場所事業（小学生の居場所）の活動内容はどうか

主な情報（一部抜粋）

子どもアンケートから	(評価につながる意見)
○放課後等居場所事業は楽しいか <b>楽しい 96.1% 楽しくない 4.0%</b>	○学校外に出ることなく遊ばせることができ安全・安心
保護者アンケートから	○他のクラスや別の学年の友達と遊ぶことが増えた
○放課後等居場所事業に満足か <b>満足 75.9% どちらともいえない 20.5% 不満 3.6%</b>	○お迎えの時など、子どもの様子などを伝えてくれてありがたい (課題につながる意見)
○小学生の居場所の機能・役割（5項目）を継承していると思うか (①居心地の良い安全・安心な居場所の提供) <b>いる 74.1% いない 2.8% どちらともいえない 23.1%</b>	○学校になじめない子にとっては居心地のよい居場所にはなりづらい
(②子どもが主役の多様な遊びの援助) <b>いる 63.1% いない 4.0% どちらともいえない 32.9%</b>	○校庭や体育館で遊べる時間が短い
(③子ども同士の交流や仲間づくりの支援) <b>いる 60.1% いない 5.3% どちらともいえない 34.6%</b>	○他校、国立・私立に通う友達など当該校以外の子と遊べなくなった <u>運営状況（基礎情報・職員ヒアリング）から</u>
(④スポーツ、文化・創作活動など様々な体験活動の提供) <b>いる 53.4% いない 6.3% どちらともいえない 40.2%</b>	○放課後等居場所事業の利用者数は児童館に比して1.4倍
(⑤地域全体で健全育成を進める環境づくり) <b>いる 37.1% いない 9.1% どちらともいえない 53.9%</b>	○高学年（5・6年生）の利用者数は児童館の方が多く 他校登録数：9.2名 他校利用数3.9名
	○実行校以外の他校に在籍する小学生の利用状況（1校1月平均）
	○子どもからやりたい遊びを聴く機会を設け、運営に反映
	○活動拠点の場소가狭い

分析・評価

- 小学生の居場所としての活動内容を次のとおり整理し、活動に内容に沿って分析・評価を行った。
  - ①居心地の良い安全・安心な居場所の提供 ②子どもが主役の多様な遊びの援助 ③子ども同士の交流や仲間づくりの支援
  - ④スポーツ、文化・創作活動など様々な体験活動の提供 ⑤保護者や学校、関係機関との連携
- その結果、いずれの活動も一定の役割を果たしていると言える。ただし、一方で、以下の点を課題として指摘できる。
  - ・学校になじめない子への対応 ・高学年児童の利用促進 ・外遊びなど身体を動かす活動の充実
  - ・児童クラブ在籍児童との更なる交流機会 ・乳幼児や中・高校生との世代間交流 ・体験活動（イベント、プログラム）の充実 など

検証を通じて指摘できる「放課後等居場所事業には見られない児童館の特性」

- 常態として、子ども自身が自ら居心地の良いスペースを選んで、複数の部屋を利用することができる。
- おやつなどの持ち込みができる。また、一部の児童館では自分の玩具（持ち込める玩具に制限あり）を持ち込んで遊ぶことができる。
- S S W（スクールソーシャルワーカー）等と連携して、不登校の子どもの活動場所として活用しやすい。
- 同年代（小学生同士など）だけではなく、日常的に年代の違う子ども（乳幼児や中・高校生など）と出会うことができる。
- 館内児童クラブがある児童館においては、常態として児童クラブ在籍児童と一般来館児童と一緒に過ごすことができる。
- 子どもや保護者と職員との関係作りにおいて、乳幼児期の利用からの継続的なつながりがある。

検証結果

- 小学生の居場所として求められるそれぞれの活動に沿った分析・評価を踏まえると、児童館における小学生の一般来館の機能・役割は概ね継承されていると言える。
- しかしながら、それぞれの活動において、分析・評価で指摘するような課題を有しており、課題解決に向けた取組が求められる。

(注) アンケート結果の記載 「楽しい」は「とても楽しい」と「楽しい」の回答を、「楽しくない」は「あまり楽しくない」と「楽しくない」をの回答を合わせたもの。「満足」は「大変満足」と「満足」の回答を、「不満」は「不満」と「大変不満」の回答を合わせたもの。「いる」は「継承されている」と「どちらかと言えば継承されている」の回答を、「いない」は「どちらかといえば継承されていない」と「継承されていない」の回答を合わせたもの。「よい」は「小学校内（学校隣地）がよい」と「どちらかといえば小学校内（学校隣地）がよい」の回答を、「よくない」は「どちらかといえば小学校内（学校隣地）がよくない」「小学校内（学校隣地）がよくない」の回答を合わせたもの。「賛成」は「賛成」と「どちらかといえば賛成」の回答を、「反対」は「どちらかと言えば反対」と「反対」の回答を合わせたもの。「十分」は「十分行われていた」と「ある程度行われていた」の回答を、「不十分」は「やや不十分だった」と「不十分だった」の回答を合わせたもの。

【視点2】児童クラブ（小学生の居場所）の設置場所はどうか

主な情報（一部抜粋）

保護者アンケートから	(評価につながる意見)
○児童館内の児童クラブと小学校内（学校隣地）の児童クラブの以下の項目について、どのように思うか (①通所の安全・安心について) <b>よい 91.8% よくない 4.1% どちらともいえない 4.1%</b>	○③児童クラブに在籍しない友達と遊ぶ機会について <b>よい 65.5% よくない 28.4% どちらともいえない 6.1%</b>
(②身体を動かして遊ぶ機会について) <b>よい 83.8% よくない 5.4% どちらともいえない 10.8%</b>	○④育成室などの活動スペースについて <b>よい 68.0% よくない 15.4% どちらともいえない 9.4%</b>
	○交通事故や不審者のリスクがなく安心
	○校庭が使える頻度が少ない
	○乳幼児親子や中学生、児童クラブに在籍していない友達と遊べない

分析・評価

- 次の視点に沿って児童クラブの設置場所の違いによる成果や課題を分析した。
  - ①通所の安全・安心 ②身体を動かして遊ぶ機会 ③児童クラブに在籍しない友達と遊ぶ機会 ④育成室などの活動スペース
- その結果、児童クラブの設置場所に関して、多くの保護者が校内（隣接地）設置を望ましいと考えていることがうかがえる。ただし、一方で、以下の点を課題として指摘できる。
  - ・校庭や体育館を使用できない場合、活動場所が育成室に限定される ・児童クラブに在籍しない子どもと遊ぶ機会が限られる

検証を通じて指摘できる「校内児童クラブには見られない児童館（児童館内児童クラブ）の特性」

- 常態として児童クラブ在籍児童と一般来館児童と一緒に過ごすことができる。
- 小学生同士だけではなく、日常的に年代の違う子ども（乳幼児や中・高校生）と出会うことができる など

検証結果

- 分析・評価を踏まえると、児童クラブの設置場所として校内（隣接地含む）は適していると言える。
- しかしながら、分析・評価で指摘するような校内（隣接地含む）設置であることによる課題を有しており、課題解決に向けた取組が求められる。

【視点3】子ども・子育てプラザ（乳幼児親子の居場所）の活動内容はどうか

主な情報（一部抜粋）

アンケートから	(評価につながる意見)
○こども・子育てプラザに満足しているか <b>満足 97.8% 不満 1.3% どちらともいえない 1.0%</b>	○乳児向けのスペースがあり、安心して遊ばせることができる
○乳幼児親子の居場所の機能・役割(6項目)を継承していると思うか (①くつろぎの居場所と遊び場の提供) <b>いる 96.5% いない 1.5% どちらともいえない 2.0%</b>	○職員が気軽に声をかけてくれる
(②子どもに関する身近な相談への対応) <b>いる83.9% いない 0.0% どちらともいえない 16.2%</b>	○プログラムが充実している (課題につながる意見)
(③乳幼児親子の交流の場の提供) <b>いる 94.9% いない 1.0% どちらともいえない 4.0%</b>	○小学生、中学生などとの多世代の交流がしにくい
(④地域の子育て関連情報の提供) <b>いる 90.9% いない 0.5% どちらともいえない 8.6%</b>	<u>運営状況から</u>
(⑤親子で楽しめるプログラムや子育てに関する講座等の実施) <b>いる 96.4% いない 0.5% どちらともいえない 3.0%</b>	○利用人数：乳幼児数（令和4年度） <b>プラザ一日平均 58.8人（児童館比5.4倍）</b>
(⑥子育て自主グループの活動支援) <b>いる 57.9% いない 2.0% どちらともいえない 40.1%</b>	○乳幼児向けプログラム実施回数（令和4年度・1施設平均） <b>ゆうキッズ：13.4回（185.3人）</b> <b>プラザ：72.1回（1,346.4人）</b>
	○目的内団体利用数（令和元年度・1施設1月平均） <b>プラザ：11.2団体、139.3人</b> <b>児童館：1.7団体、延19.2人</b>

【視点3】子ども・子育てプラザ（乳幼児親子の居場所）の活動内容はどうか（つづき）

分析・評価

○乳幼児親子の居場所としての活動内容を次のとおり整理し、活動内容に沿って分析・評価を行った。

①くつろぎの居場所と遊び場の提供 ②子どもに関する身近な相談への対応 ③乳幼児親子の交流の場の提供  
④地域の子育て関連情報の提供 ⑤親子で楽しめるプログラムや子育てに関する講座等の実施 ⑥子育て自主グループの活動支援

○その結果、いずれの活動も、役割を果たしていると言える。ただし、一方で、以下の点を課題として指摘できる。

- ・世代間交流の方法
- ・職員の相談スキルのさらなる向上
- ・保護者同士をつなぐ仕掛け（プログラム等）の更なる工夫
- ・保護者ニーズに合わせた情報提供の工夫 など

検証結果

○それぞれの活動に沿った分析・評価を踏まえると、児童館における乳幼児親子の居場所の機能・役割は継承されていると言える。

○しかしながら、一部の活動において、分析・評価で指摘するような課題を有しており、課題解決に向けた取組が求められる。

○また、子ども・子育てプラザは、乳幼児親子の居場所の機能をより発展させるものとして、子ども・子育て支援法に基づく地域子育て支援事業（地域子育て支援拠点事業、利用者支援事業等）を行うこととしており、その充実を図ることが望まれる。

【視点4】中・高校生の居場所の活動内容はどうか

主な情報（一部抜粋）

利用者（中・高校生）アンケートより

○コミュニティふらっと永福の「ティーンズタイム」の取組についてどう思うか。  
満足 75.0% 不満 1.7% どちらともいえない 23.3%

○コミュニティふらっと永福の利用目的は何か  
専用スペースの利用（学習利用）82.0% おしゃべり 32.8%

○中・高校生になってから、児童館を利用したか  
利用したことがある 18.0% 利用したことがない 82.0%

運営状況から

○児童館の利用状況（一館一日平均利用者数）  
H28（41館） 中学生2.4人、高校生0.5人  
R4（27館） 中学生1.7人、高校生0.1人

現場職員（児童館）ヒアリングから

○小学生の利用が主のため、来館しても遊べるスペースが限定的

○ニーズに応えられる設備（バスケットゴールなど）が無い

ゆう杉並の取組から

○「区立中学校への広報活動の強化」や「ゆう杉並の活動の全区的周知」といった充実策を進め、利用者の増加が見られるが、全区的に均一な利用の広がりには至っていない

利用者（中・高校生）ヒアリングより

○区内の中・高校生の居場所は少なく感じる

○無料でスポーツができる場所がほしい

○勉強（自習）ができる場所がほしい

○全ての人を対象に作るより、利用目的や利用者層を絞った方がよい

分析・評価

○コミュニティふらっと永福における取組については、「学習」や「友だちとおしゃべり」といったニーズを持つ中・高校生にとっては、居心地の良い気軽に利用できる居場所となっていることがうかがえる。しかし、施設近隣に居住する中・高校生全般が気軽に集う場とはなっていない。

○ゆう杉並の充実（利用拡大）については、限界があると言える。一般的には、小学生に比べれば中学生は日常的な行動圏域は広いものの、遠方に居住する中学生にとっては、ゆう杉並は気軽に利用できる環境とはなりにくい。

○児童館においても、中・高校生の居場所としての機能・役割を十分に果たすことができない状況にある。

○中・高校生世代（思春期）の特性やニーズを的確に捉えるためには、当事者である中・高校生の声を丁寧に聴く必要がある。

検証結果

○中・高校生の居場所の機能・役割は、児童館、ゆう杉並、中・高校生の新たな居場所づくりの取組のそれぞれで課題を有しており、今後のより良い子どもの居場所のあり方の検討において、改めて中・高校生の居場所づくりをどのようにしていくか検討する必要があると言える。

【視点5】地域子育てネットワーク事業（地域連携）の活動内容はどうか

主な情報（一部抜粋）

運営状況から

○この取組は0歳～18歳の子どもを見据えて、地域全体で子どもの成長と子育てを支える機運を醸成するものである。

○再編後の事務局を子ども・子育てプラザが担い、従前の活動を継承している。

○プラザによっては、複数の小学校区（最大3小学校区）の事務局を同時並行して担う形になっている。

○プラザは乳幼児親子が主たる利用者のため、小学生以上の関係作りに難しさがあるが、元児童館職員が配置されていることで、関係作りを維持できていると考えられる。

分析・評価

○現状では、児童館再編後の小学校区における地域子育てネットワーク事業を継承していると言えるが、小学生以上の子どもとその関係者（大人）とのつながりが弱い中にあることは、今後も的確に継承していけるかどうかという点が課題として指摘できる。

○また、複数の小学校区の事務局を受け持つことの難しさが課題として指摘できる。

検証結果

○分析・評価を踏まえると、現状では、子ども・子育てプラザにおいて地域子育てネットワーク事業を継承できていると言える。

○一方、分析・評価で指摘するような課題があることから、今後のより良い子どもの居場所のあり方の検討にあわせて、既存のネットワークの対象範囲（小学校区単位の範囲）の考え方も含め、的確に地域のネットワーク機能を維持していくための方策を検討する必要があると言える。

検証項目：児童館再編の取組の進め方がどうであったのか

【視点6】児童館再編に係る意見聴取などの進め方はどうか

主な情報（一部抜粋）

保護者アンケートより

○児童館再編に関する意見を伺う取組についてどう思うか  
（放課後等居場所事業アンケート）  
十分 32.4% 不十分 16.8% どちらともいえない 50.8%

（子ども・子育てプラザアンケート）  
十分 27.8% 不十分 12.9% どちらともいえない 59.4%

○取組の内容（意見を聴取る取組・施設再編整備計画そのもの）を知らなかった

○小学生の新たな居場所づくりについて、あまり周知されていない

○計画策定前に意見を聴いてほしかった

○児童館とプラザの違いがわからない

分析・評価

○意見を伺う取組についてどう思うかの問いに、「どちらともいえない」が5割を超えており、パブリックコメントや説明会等の取組が十分に周知されていなかったことが伺える。

○また、再編を進めることについてどう思うかの問いに、放課後等居場所事業の参加の有無や児童館の利用の有無に関わらず「どちらともいえない」がどの層も3割以上あり、児童館再編の取組が十分に理解されていないことが伺える。

検証結果

○児童館再編の取組自体に対しては、概ね肯定的な意見が多いものの、児童館再編に関する利用者意見の聴取が十分だったかという問いに対して、「どちらともいえない」とする意見が多いことからすると、事前の意見聴取や、計画策定プロセスにおける住民参画の取組や、取組内容の周知の取組が十分ではなかったと言える。

○この点を踏まえ、今後のより良い子どもの居場所のあり方の検討に当たっては、検討のプロセスにおいて適時周知を十分に行うとともに、居場所を利用する当事者である子どもをはじめ、保護者や子どもを取り巻く大人の意見を丁寧に聴取しながら地域住民と共に進めていく必要がある。

検証のまとめ

- 中・高校生の居場所を除き、児童館の機能・役割を継承していると評価できる一方様々な課題を有する。
- 多様な居場所を求める声が多くあり、こうした観点に配慮した検討が必要である。



- 今回の検証結果（明らかとなった課題等）は、今後のより良い子どもの居場所のあり方の検討の過程に引き継ぎ、課題等の解決策の検討も含め、子どもの居場所をどのように展開していくべきか等を検討する。
- また、当事者である子どもをはじめ、保護者や子どもを取り巻く大人の意見を丁寧に聴取しながら進める。